# 広域連携プロジェクトの推進について



国土交通省

資料7-1別紙

広域連携プロジェクトの早期の具体化を図るため、以下の先行的なプロジェクトの形成を支援する。これらのプロジェクトは、①対流促進 等、国土形成計画の基本理念の実現に貢献するとともに、②スーパー・メガリージョンの形成及び地方圏との対流促進、さらに地方同士の ブロックを超えた広域連携(海洋・海外を含む)を促進し、全国を一つの経済圏に統合する地方創生回廊の形成に貢献するとの観点から、 各広域地方計画協議会において選定されたもの。

## ⑴ 近畿を結節点とするアジア・西日本とスーパー・ メガリージョンとの連携促進プロジェクト(P24,25)

リニア中央新幹線の整備を見据え、近畿圏をスーパー・メガリージョンに対 する西日本のターミナルと位置づけ、近畿圏の結節機能を強化することで、 アジア等海外を含めて、人・物・情報の広域の対流を活発化させ、イノ ベーションの促進やインバウンドの増大等による圏域の活性化を目指す。

## (12) 高速交通ネットワーク活用と質の高い定住環境 整備による「創造定住拠点」形成プロジェクト

中国・四国圏における、高速交通ネットワークの整備・活用による大都市 圏や海外へのアクセス改善と豊かな自然や文化に支えられた質の高い定 住環境の整備により、情報通信産業など知識創造型産業を担う人材を 含む多世代の定住・交流を促進し、豊かな生活圏域の形成と地域産業 の活性化を目指す。(P26、27)

アジア等海外

### ⒀ 世界遺産等海道プロジェクト

九州圏は、将来的に山口から九州、沖縄まで6 つの世界遺産が海洋を含んで連なる地域となる 可能性があることを活かし、豊かな自然環境、歴 史・文化、食文化等に裏付けられた魅力ある地 域づくりと、それを活かしたアジアを含む圏域内外 の交流・連携の促進により、日本の成長センターと なることを目指す。(P28、29)

# ⑧ 北陸新幹線の対流促進効果最大化

北陸新幹線がもたらす人流の変化を圏域全体の活性化に つなげるため、新幹線主要駅の拠点機能や関連する交通 環境の強化等により、北陸各地域への人の流れを拡大し、 産業創出や居住・就労等を促進することにより、北陸圏の 地域活性化を目指す。(P18、19)

による北陸圏地域活性化プロジェクト

## ① 広域対流促進電子スタンプラリー支援 **プロジェクト** (P4、5)

従来の観光スポットにとどまらない農林水産業体験や製造・調理 体験等ができる訪問体験可能拠点の発掘を図るとともに、電子ス タンプラリーでこれらをネットワーク化することで広域の対流を促進し、 観光を通じた地場産業の振興に基づく被災地復興や地域振興を 目指す。

## ② バイオ・医療産業等を核にした東北圏地域づくり強 **化プロジェクト**(P6、7)

国内外の広域連携を必要とするバイオ・医療機器産業等の先端産業拠点の集 積を促進するため、先端産業集積を支える交通インフラのあり方について検討す るとともに、先端産業の集積を活かし、外国人交流人口増加にも対応するまち づくりの推進等、地域振興を目指す。

#### 4 東日本地方創生回廊とスーパー・メガリージョンとの 連結拠点創出プロジェクト(P10、11)

東北・北海道、上越、北陸新幹線が集まる大宮をスーパー・メガリージョンに対す る東日本の玄関口と位置づけ、東日本各地とスーパー・メガリージョンとのビジネス マッチングや東日本各地のショールーム機能を持つ拠点を設けることなどにより両地 域の対流を促進し、スーパー・メガリージョンの効果を東日本各地に波及させる。

### ⑤ 太平洋・日本海横断高競争力製造業ベルト創出 プロジェクト (P12、13)

北関東・信越地域における北関東自動車道等の高速道路網の整備、太平洋・ 日本海両面の港湾を活用できる立地特性を活かし、両地域の産業連携、海外工 場の国内回帰、マザー工場の集積等、競争力の高い製造・エネルギー産業の集積 を進め、高度な国際競争力を有する産業集積ベルトの構築を目指す。

#### ⑥ 新たな働き方・暮らし方を実現する首都圏3リングの 形成プロジェクト (P14、15)

国道16号周辺地域を近郊居住再生リングとして、ニュータウンの再生など住み続け るための取組を進めるとともに、圏央道周辺を圏央物流リングとして物流の効率化 による首都圏産業の競争力強化を図る。さらに、都心部からおおむね1時間圏で は、インターネットを活用したサテライトオフィス等による二地域居住を推進するなど 都心部からの距離に応じた新たな働き方・暮らし方を提案し、それぞれの地域の再 牛を目指す。

#### ⑦ IoT・ICTを活用した豊かなスマート関東の実現 プロジェクト (P16、17)

技術革新により急速に進化したIoT、ICTを活用して豊かな暮らし、生産性 の高いビジネス環境を実現するため、首都圏の各プロジェクトにおいてIoT、IC Tの活用を推進するとともに、特区制度等も活用し、先鋭的な実証実験も進め、 社会への導入・普及を目指す。

## (9) リニア時代の"ものづくり"進化プロジェクト(P20、21)

リニア中央新幹線の開業により中部圏と地方との時間距離が大幅に短縮されることを踏 まえ、中部圏と各地のものづくり産業との連携拡大の可能性とそれを踏まえた中部圏の 今後のものづくり産業の発展シナリオを展望し、リニア開業がもたらす地域振興の効果の 最大化を目指す。

#### ⑩ リニア効果の広域的波及を促進するまちづくり・モビリティ **進化プロジェクト**(P22、23)

リニア中央新幹線の駅を核とした地域の活性化に向けて、自動運転技術の導入による 革新的なバストランジットなど新たな二次交通のあり方及びそれを活用したまちづくりの将 来方向を検討し、リニア効果の広域的な波及の最大化を目指す。

## ③ リニア開業を踏まえた首都圏の国際競争力高度化 **プロジェクト**(P8、9)

リニア中央新幹線の開業、成田・羽田の機能強化等と都市再生制度・特区制度等の 活用により東京圏の国際ビジネス機能集積を図るとともに、首都圏南西部に高機能な 物流・観光ハブ、R&D・新産業の集積・交流の拠点形成を図る。